

International Symposium

科学の不定性と社会

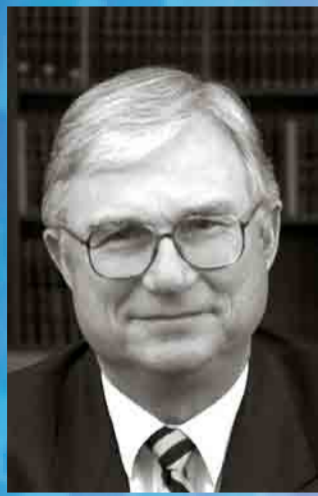
on Scientific Incertitude and Society: Lessons from Law Court

～ いま、法廷では..? ～

原発の稼働の可否，地球温暖化への対処など，科学技術の問題は科学が答えを決めるのでしょうか。専門家の判断は絶対なのでしょうか。

学校では「正解のある科学」が教えられます。しかし，先端技術の評価や環境予測など，現実社会の中で科学は正解を用意できません。では，主権者たる市民，行政，そして司法は，このような本質を持つ科学，これを用いる専門家とどう向き合えば，主体的判断に活かせるのでしょうか。

このシンポジウムでは「不定性」が端的に現れる法廷を例に日本の制度的問題を明らかにし，世界最先端の「コンカレント・エヴィデンス方式」(マクレラン判事)，「専門知の不定性」(スターリング教授)の知見を踏まえることで，科学の不定性を直視した社会制度のあり方を議論します。



Justice Peter McClellan



Prof. Andrew Stirling



小林 傳司 教授

講演者・パネリスト

オーストラリア NSW 州最高裁判所コモンロー首席判事 ピーター・マクレラン

英国サセックス大学 科学政策研究所 (SPRU) アンドリュー・スターリング

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 小林 傳司

総合研究大学院大学学融合推進センター 平田光司

立命館大学法学部 渡辺千原

常磐大学 吉良貴之

東北大学大学院法学研究科 米村滋人

流通経済大学法学部 尾内隆之

国際基督教大学 中島貴子

東北大学大学院理学研究科 本堂 毅、他

8/26 sun.

東京 一橋記念講堂 大ホール

10:00 ~ 18:00

入場無料 一般公開

主催：(独) 科学技術振興機構 RISTEX 研究開発プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」科学グループ

運営：国際シンポジウム組織委員会

後援：科学技術社会論学会 日弁連法務研究財団 日本物理学会 日本臨床環境医学会

事務局：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 東北大学理学研究科 本堂研究室内 TEL：022-795-5823 Mail：sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp

参加申し込み・詳細 ▶ <http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/0826/>

または「科学の不定性 0826」で検索すると上位に出ます。